

丹波市人権・同和教育協議会

人権ネットワーク たんば

第47号

発行 丹波市人権・同和教育協議会
〒669-3309
事務局 丹波市柏原町柏原443
TEL・FAX 0795-72-2770
e-mail jinker@tambashi-doukyou.jp

5月上旬から8月末まで、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、丹波市同教の部会や研修会を中止しておりましたが、3密を避ける手段をできる限り講じ、研修会を開催することができました。

合同部会B

人権教育研修会 (社会教育分野 合同部会B) 9月10日

演題/「元気になる生き方」～明るい地域づくりをめざして～

講師/ 兵庫県人権教育研究協議会 後藤みなみ (王 淑麗)さん

講師の後藤みなみ (帰化前のお名前; 王淑麗 ワンスウリ)さんは、1958年に台湾でお生まれになり、26歳の時に来日されました。元外国人として、主婦として、働く女性として、日々の暮らしの中で感じておられることをさわやかにお話いただきました。演題「元気になる生き方」のとおり元気がいっぱい出る講演会となりました。

日本人の幸福度

3月20日は国際幸福デー。国連の関連機関は毎年この日に「世界幸福度ランキング」という調査結果を発表しています。最新のランキングが発表され日本は62位 (昨年は58位) でした (World Happiness Report 2020より)。多くの人が「幸福」を追求しているわけですが、そもそも「幸福」とは何なのでしょう。収入の多さや社会的地位の高さ、配偶者の存在などは、どれほど人間の「幸福」に影響を及ぼすのでしょうか。最新の2020年版の幸福度ランキング上位を見てみると、1位フィンランド、2位デンマーク、3位スイス、4位アイスランド、5位ノルウェーと北欧諸国が多く並んでいます。元気のできる生き方を多くの人がすれば日本人の幸福度ももっともっと上がるのではと思います。

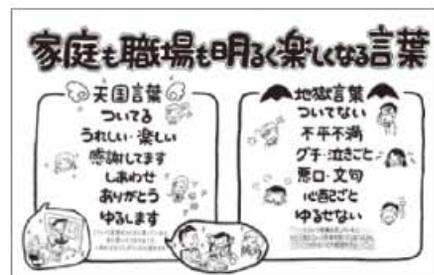
健康が一番

私は「困ったときの、みなみちゃん」と呼ばれています。「何か困ったことがあったら言ってくださいね!」と普段から言っているのですが、多くの方がいろいろなことを頼んできます。本当に忙し

い毎日ですが、おかげさまで楽しく過ごしています。私が元気なのは、しんどくなる暇がないのかもしれませんが。みなさんは、がんばるとどうしても肩が凝りますよね。しんどくなると肩間にしわが入ります。顔もどんどんきつくなっていきます。そんな時は、ちょっと一休みしてください。ゆとりを持ちましょう。「医食同源」といいますが、健康の源は食べ物です。丹波市は、山芋、黒豆、コシヒカリなどいいものがいっぱいあります。地元食材をしっかりといただくことが健康につながります。また、日本には「いただきます」「ごちそうさま」といった感謝の気持ちを表す言葉があります。これもすごく大事で、感謝の気持ちを表すことは心の健康につながっていきます。

元気になる黄金律

(人生にとってこの上なく有益な教訓)
「悦己悦人 (えつみえつじん)」…自分のこと



が好きで、いつも幸せを感じている。喜ぶ気持ちを自分が持っていると思えないもので周囲も喜びの気持ちに満ち元気になる。

「恕 (じょ) …相手を思いやって許す。
「己所不欲勿施於人 (己(おのれ)の欲(ほつ)せざると所、人に施(ほどこ)すこと勿(な)かれ)」…自分が好まないことは、他人に対してもしてはならない。

幸せのキーワード

(家庭も職場も明るく楽しくなる言葉)
「ありがとう」「感謝しています」「うれしい」「楽しい」などの天国言葉を使っていると気持ちも前向きになっていきます。

自分でつくる居場所と出番

最初は難しいと感じることも、うまくやっている人の真似をしていくと、その積み重ねでできるようになっていき、それが自信につながります。楽しくやっているとどんどん人が自分の周りに集まらされます。「あなたに会うのが楽しい」と言ってくれます。自分の居場所や出番は自分でつくるものなのです。

合同部会B

人権教育研修会 (社会教育分野 合同部会B) 9月17日

演題/ 高齢者の人権を考える ～「夢を叶えるプロジェクト」の取り組みから～

講師/ 高齢者総合福祉施設 丹寿荘所長 植木 直子さん

「あなたの夢は何ですか？」

～元気なうちに叶えたいこと・死ぬまでに叶えたいこと～

それを実現しようとする取り組みが「夢を叶えるプロジェクト」です。

でも、高齢者になったら…、体が不自由になったら…、認知症になったら…、施設に入ったら…。夢は叶えられないのではないかと心配していませんか? 施設で生活されていても、叶えたい夢や希望を持って、生きがいのある生活を送っていただくための取り組みです。

「夢を叶えるプロジェクト」

数十年前までは、病気になる機能障害で機能が低下し寝たきりになってしまう高齢者を、マイナス面としか見ない考え方でした。それが、プラス面とマイナス面の両方でとらえる考え方 (国際生活機能分類=ICF) になりました。マイナス面ばかりに注目する一方通行ではなく、生活のしづらさの原因をその人の特性と関連させてとらえる考え方です。

そこで「夢」を叶えるためには3つの大切なこ

とがあります。

- ① 高齢者の生きてこられた道 (人生) を尊重する
- ② 考える方向を変えてみる
- ③ みんなの力で実現する

このプロジェクトで夢を叶えられたご夫婦がおられます。奥様が脳梗塞を患われ歩行は介助が必要な状態で、移動は車椅子です。元気なころは電車に乗って出かけられていたということで、「電車に乗りたい」という夢を実現することができました。もちろん、奥様の懸命なりハビリと施設の方、ご主人の協力、支えがあつての実現となりました。

高齢者の人権とは・・・

- 「夢を叶えるプロジェクト」を通して
- ① その人の歩んでこられた人生を尊重する
- ② プラス面、マイナス面、両方を持ち合わせていることを理解する
- ③ みんなで支え合うことが大切

夢を叶えるプロジェクトで夢を実現されたご夫婦は、施設に入ったら電車にはもう2度と乗れないだろうと諦めておられましたが、夢が叶って本



当に喜んでおられたし、その笑顔で施設の職員もやりがいを感じた思い出でした。近年、高齢者の虐待等のニュースをよく耳にしますが、前の3つを念頭において、虐待のない安心して住める地域であってほしいと思います。いずれは自分も歩む道です。いくつになっても夢をあきらめない人生と一緒に歩みたいものです。

理事研修会 10月29日

演題/「コロナ差別と人権」

講師/ 淡路地区人権教育研究協議会 会長 山添 繁さん



新型コロナウイルス感染拡大で見えてきたこと

- ①どのような人たちが差別を受けたのか
 - ・感染者や濃厚接触者、家族。ルールを守らず行動して感染した人や関係者。感染者が出た職場や学校。医療従事者など社会を維持するために自宅外で勤務する労働者。「夜の街」での接客業など人と接触することが避けられない人たち。
 - ・天理大学生の感染から
- ②世間という同調圧力（少数派の人に対して、周囲の多くの人と同じように考え行動するよう、暗黙のうちに強制すること）
 - ・親から「お盆の帰省はやめてほしい。コロナにかかると怖いけど、近所の目の方がもっと怖い」と言われた。
 - ・マスクを着用する理由として、本来のマスク着用の目的であるはずの「他者への感染防止」ではなく、「他人が着けているので自分もそうしている」と答える人の割合が多い。（同志社大学中谷教授調査より）
 - ・感染症の患者は感染して被害者になった瞬間から他の誰かに病気を感染させる「加害者扱い」をされる。
- ③自己責任
 - ・「感染する人は自業自得だと思うか」の問いに「そ

う思う」と答えた割合は、アメリカでは1%、日本では11.5%と圧倒的に日本では自己責任の考え方が強い。（大阪大学の三浦麻子教授調査より）

④構造的な差別

- ・社会的地位（職業や学歴などの社会的な指標と収入などの経済的な指標を組み合わせて評価される地位）の低い人たちは、医療資源へのアクセスが制限され「リモートワーク」をすることができないホワイトカラーの仕事よりも「エッセンシャルワーク」に就く可能性が高く、自己を隔離しにくい。その結果、新型コロナウイルスに感染しやすく、重症化しやすい。

コロナ差別をなくすために

- ①ハンセン病から学ぶこと
 - ・ハンセン病とは
 - 「らい菌」によって引き起こされる微弱な感染症。おもな症状は、末梢神経が侵され、手、足、顔などに知覚マヒや運動マヒが起きたり、皮膚がただれたりする。死に直結するわけではないが、適切な治療をしないと第2次傷害（知覚マヒのためヤケドなど）によって、手足や顔が変形したり、大きな後遺症が出るものがしばしばあった。こうした症状に加え、仏教の宿業論にもとづく「不治の病」、「遺伝病」などの俗説が流れ人々から恐れられ、不当に差別された。
 - ・無らい県運動
 - ハンセン病患者が自分たちの町や村に一人もいないことをめざして、ハンセン病療養所に入所さ

せる官民一体となった運動。

この運動では警察や保健行政機関をはじめ、学校現場、地域住民がハンセン病患者の発見、通報、収容促進の役目を担い、その過程でハンセン病は「恐ろしい伝染病」という誤った認識が社会に植えつけられた。そして、地域社会、市民にハンセン病に対する偏見・差別や忌避観が定着した。その結果、患者は療養所以外に居場所を失い、またその家族までもが地域から排除され、差別を受けた。

・黒髪小学校事件

1954年、熊本県のハンセン病療養所「菊池恵楓園」の入所者の子どもが通う保育所「龍田寮」からハンセン病に感染しておらず、黒髪小学校に入学する予定であった児童4人が、PTA等の反対で入学を拒否された事件。当時、ハンセン病患者の子どもは、いづれ発症するという偏見から「未感染児童」とも呼ばれた。その子どもたちから病気がうつるのを恐れ、登校拒否や授業拒否を行った。

②同じ過ちを繰り返さないために

世間に存在する悪は、ほとんど常に無知に由来するものであり、善き意志も、豊かな知識がなければ、悪意と同じくらい多くの被害を与えることがありうる

（「ベスト」カミュ著より）

人権コラム

いつも丹波市同教広報紙「人権ネットワークたんば」をご一読いただきありがとうございます。47号では、新たな試みとして、人権コラムのコーナーを設けました。第1回として、元市同教事務局長の中山謙逸さんにお母さんを介護された際の思いを綴っていただきました。温かきや思いやりに溢れた場面を想像しながら読んでみてください。

一生一度の恩返し

母が亡くなって早や5か月。月日の経つのは早いものである。2歳で養父にきた母は、それから90年の間、学校や学務員としての時間を除いてずっとこの家で過ごした。三人の子どもを大きくし、その後は四人の孫の面倒をみ、私の祖母の介護などで、ほとんどの人生は子育て孫育て（私は学校、妻は病院の共働きであったため）そして介護につき込んだようなものであったろう。

その母が、2年ほど前から要介護1から2になり、それから間もなく脳梗塞を発症。

<闇を裂き ひたすら走るサイレンの車に乗れば 声も無し>

入院2か月、その間に要介護4（3を飛び越えて）に昇格？それまでは排泄や風呂も何と自分でできていたのだが、さすがに要介護4になるとそれまでできなくなり、退院後は車イスでの生活を余儀なくされてしまった。いわゆる全介助である。入浴は週2回のデイサービスのみ、排せつは常時のオシメ。食事は妻が作ってくれる介護食を食べていたが、だんだんとおかゆと汁物だけになり、おかゆもついにミキサーにかけないとのを越さなくなっていった。もちろん脳梗塞のために左手が全く使えないことに加え、右手にも軽いマヒが生じ、食事も自力でできない。オシメの交換は朝昼夕の三回と深夜0時ごろの4回が常時のこと、体調がよくないときは多い時で2~3回不定期に増えることもあった。

そんな生活が1年ほど続いた頃、大便のオシメ交換を

していた私たちに母がこんなことを言うようになった。「誰がこんなことをしてくれるかいない。早う迎えに来てほしいと先祖さんに頼んどるんやけどちよっとも来てくれないや」と。また「すまん、なんにもお返しができへんけどこらえてな」とも。「お返しなんかいらんわな。長生きすることがお返しやで」と私はその都度返答していたが、涙が止まらず戸の陰で何度となく泣いて。下の世話ながら、する方もさることながら、される方にとってはどんなにか苦痛であったらと思うが、そこにも逃れようのない現実が覆いかぶさってくる。

<イヤイヤが顔に映せし排池も 出てくれ有難うと思う 今日この頃は>

汚いものを汚いと思わなくなる、それって本当にあるんだと教えてもらった。人間にとって何が本当に大事なことか、私は今まで学校で何を教えてきたのか、自問自答すること日々であり、世話ができることを感謝しながらの毎日であった。そしてその毎日が新しい勉強であった。しかも、恥ずかしいことではあるが、親子の対話がこの時期ほど濃密だったことにハタと気付かされた。家族の気持ちの交流、介護時の真剣な対峙、そこに人間がともに生きることの喜びとありがたさがあった。

「親の世話とする子の背中からは後光（ごこう）がさすんやで」と母は言った。また「世話してもらうのはほんまに気の毒やから、おじいさん（母のつれあい）に早う迎えに来て頼んどるんやけど（おじいさんは13年前に他界）、ちっとも言うことを聞いてくれない」と言うので、「迎えに来てもらうのはおじいさんやうて、阿弥陀さんやで」

と言うと、「ホンなら顔でみるわ」と言って寝た翌朝、どうやった？と聞くと、「今こっちはいっぱいやからこんどにせえようたつた」と言った。この答えには思わず笑ってしまった。

母は、自分が植えて育てたピラカンザスを眺めるのが好きだった。この植物の実実は秋から冬にかけて黄色から赤色に変色する。冬になるとヒヨコなどがやってきて実をついばんで飛び去って行く。色づいた実を眺めるのも好きだったが、ついばんでいく鳥たちを見るのも好きだった。

<その昔 負われし母を今は貴い 日なたの窓に四季を見せたり>

母が亡くなって早や5か月と最初に書いたが、ピラカンザスの実が今年もその黄色い実をたわわにつけた。もうすぐこの実が赤く色づく頃になるだろう。

この頃毎朝、仏壇の、ある意味軽くなった母の写真を抱え、庭先のピラカンザスの前に行く。「おばあちゃん、ピラカンザスやで。今年もきれいに実をつけたなあ。もうじき鳥たちも食べに来るで」と語りかけている。

母の存命中、自分たちは精いっぱい世話をしたつもりだったが、今にして思えば、ああもしたらよかった、こうも言えばよかったと思いつく悔恨と懺悔の日々。そうも言っても、その中で多くのことを学ばせてもらったことも事実である。ピラカンザスとの語らひは、一生一度の学びをさせてもらった母への小さな小さな恩返しでもある。

青垣町 中山 謙逸

長年の知識と確かな技術と 自由な発想— 新しい業務スタイルを提案します。

防犯カメラ 最新設計から施工まで 最新ソフト 安心と安全のために

オフィス全体の セキュリティ対策

- 情報漏洩防止 ○不正アクセス、
- なりすまし
- データ改ざん等ブロック
- 送受信メールブロック等
- UTM (統合セキュリティ管理) Unified Threat Management

株式会社 ユニットシステム
UnitSystem Corporation E-mail: info@unitssystem.jp

GOTO トラベル キャンペーン!!

旅行代金が最大で半額相当が補助されます! 地域共通クーポン付付き (15%相当額)

○当社にてチケット共にお申し込みください。好評受付中!

団体旅行・グループ旅行・個人旅行などお見積りご依頼下さい

●JTB・近畿日本ツーリスト・日本旅行などの海外旅行/国内旅行/バス旅行の手配

●旅行のみの手配や食事・観光施設の手配も行います

●航空機・JTB・フェリー等各種乗車券の手配も承ります

●格安海外旅行券・海外のホテルの手配・バスツアーの手配等 各種旅行にお応えいたします

0676-0200 0200 丹波市 関西旅行社 丹波市 関西旅行社

TEL (0795) 72-0325 FAX (0795) 72-2416 E-mail: kansai-ryokou@mxa.nkansai.ne.jp

丹波新聞は下記の店舗で 最新号を販売しております。

丹波市

- ファミリーマート柏原下小倉店
- 氷上パーキングエリア
- ひがみ四季菜館 (犬岡)
- 丹波医療センター内 売店

丹波篠山市

- ファミリーマート篠山丹波南店 (東吹)
- 岡本病院内 売店 (東吹)
- セブンイレブン篠山黒岡店 (黒岡)

丹波新聞 TEL.0795-72-0530 FAX.0795-72-1956

編集後記

全国的に新型コロナウイルス感染症拡大が長期化し、人々の心に不安や恐怖が広がっています。そんな中、誤った情報収集や誤解・偏見により、感染者や感染リスクの高い医療従事者、また、その家族等が不当な差別(差別やいじめなどの人権侵害)を受けるようなことがあってはなりません。今こそ、私たち市民一人ひとりが互いの立場に立ち、思いやりの心を持って支えあう時です。この事態に対応しているすべての方々には敬意と感謝を忘れず、市民一丸となって、この難局を乗り越えていきたいと思います。

市同教の活動も新型コロナウイルス感染症拡大のため、部会や研修会、研究大会の中止が相次ぎました。9月に入り、3密(密閉、密集、密接)を避ける対策ができる限り行い、研修会等もなんとかが再開することができました。当たり前のことが当たり前にできることに感謝しつつ、今後も「差別や偏見をなくすためには何が大切か」、学習を深めていきたいと考えています。